



HAUS-HYAZIN ART GALLERY EXHIBITION 2021 10.30→11.7

ヒアシンスハウスアートコロニイ展 「記憶のありか」

新型コロナウイルス(COVID-19)の影響で、今、改めて文化芸術活動の在り方や役割について考える機会と場が求められています。

私たちは、コロナ禍、公共機関が所管・運営する美術館や文化施設が閉鎖となり、芸術祭の様な地域活動と結びついた現場も実施困難となり、文化芸術活動への参加の機会を失う経験をしました。文化芸術活動の在り方や役割について考えるときには、閉じた特定の領域の文化芸術活動の担い手だけで議論し、早急に答えを出すのではなく、広く文化芸術活動に携わる様々な領域の人が集まり、多角的・多層的な意見を交わす機会と場をつくることが大切だと考えます。その機会や場を私たちは「アートコロニイ」と表現し、実践します。

今回のプロジェクトの舞台となる、ヒアシンスハウスは立原道造が自分の創作のために設計した小屋としてばかりではなく、ここで様々な芸術家が集まるコロニイの構想もその発想の根底にあったと推測される魅力的な場です。これまでにもSMFは、ここで、様々な文化的な企画を開催し、アーティストだけでなく、公園利用者との交流も活発に行ってきました。

本展覧会、「ヒアシンスハウスアートコロニイ展—記憶のありか—」は様々な表現方法を持つ作家が集まり、作品を制作する過程から公開することで「アートコロニイ」を体感できる機会を創造します。最終日の11月7日には、関連ワークショップ、身体表現のパフォーマンス、ギャラリートークが行われます。



詳しくは裏面をご覧ください。